

平成30年度 事務事業評価表(A表)

事業整理番号	0601	- 01
--------	------	------

担当組織	環境清掃部	環境政策課	作成者	富樫	内線	2613					
事務事業名	「グリーンとしま」再生プロジェクト事業			計画事業No.	5	－	1	－	2	－	1
事務事業を構成する 予算事業	①「グリーンとしま」再生プロジェクト事業経費										

政策体系(現基本計画)				事業特性			
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち					計画事業・一般事業	計画事業
政策	みどりの創造と保全			単独・補助	区単独事業	事業開始年度	25年度以前
施策	みどりのネットワークの形成	施策番号	5-1-2	運営形態	一部業務委託	事業終了年度	
施策の目標	学校等の区有施設のほか、民有地への植樹などを通じて、区全体の緑化を推進します。			関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標		公民連携	該当
						29年度 事業整理番号	0601 - 01

1. 事務事業の概要・目標と現状の把握

事務事業の概要 (事務事業の活動 内容・進め方)		地域住民、団体等とともに「いのちの森」づくりと維持管理を行う。 緑のカーテンなど様々な緑化手法により、緑豊かなまちづくりを進める。							
事業の目標		区内に樹木などのみどりを増やす。							
事業の 対象	事務事業の働き かける「対象」	区有施設、民有地、等							
	対象の指標	指標	単位	-	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	-	30年度 (見込)
事業の 取組実績	活動指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		「グリーンとしま」再生プロジェクト実行委員会開催回数	回	2	3	2	2	100.0%	2
		緑のカーテン実施施設数	箇所	65	66	63	65	100.0%	70
								—	
								—	
								—	
事業 目標の 達成状況	成果指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		樹木本数(苗木配布本数を含む)	本	10,000	9,184	8,803	18,230	182.3%	7,000
		緑のカーテン延面積	m ²	2,400	1,426	1,984	2,601	108.4%	2,700
								—	
								—	
								—	

2. 事業費の推移

(単位:千円)

事業費(決算額・予算額)		27年度	28年度	29年度					30年度		
		決算	決算	当初予算	補正予算	流転用	予算現額	決算	執行率	当初予算	増減 (29決算)
事業費(決算額・予算額) A		3,748	5,843	5,286		2,076	7,362	7,362	100.0%	5,606	-1,756
人 件 費	正規	11,730	15,130	—	—	—	—	15,130	—	15,130	0
	(人数)	1.38	1.78	—	—	—	—	1.78	—	1.78	0.00
	非常勤	0	0	—	—	—	—	0	—	0	0
	(人数)	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—		0.00
人件費 計 B		11,730	15,130	—	—	—	—	15,130	—	15,130	0
事業費 計 A+B		15,478	20,973	—	—	—	—	22,492	—	20,736	-1,756
財 源 内 訳	国、都支出金						0		—		0
	使用料・手数料						0		—		0
	地方債						0		—		0
	その他	800					0		—		0
	一般財源	14,678	20,973	—	—	—	—	22,492	—	20,736	-1,756

3. これまでの事務事業評価を踏まえた対応

前年度最終評価	B:改善・見直し
前年度評価に基づいた具体的な対応、改善策（前年度の評価表から転記）	本プロジェクトの推進のため、平成28年から「としまグリーンウェイブ」期間を設け、区民に緑化活動を呼びかけるなど、一年を通して緑化を推進していく。 プロジェクトのこれまでの8年間の活動を今後にどのようにつなげていくかを、実行委員会を中心に検討する。
上記対応、改善策による進捗状況	本プロジェクト推進のため、29年も「2017としまグリーンウェイブ」を実施し、区民による緑化活動を推進した。

4. 現状の評価

点検項目	評価	判断理由
必要性 区が主体的に行うべきものか 社会情勢変化により必要性が薄れていないか 所期の目的を終えたのではないか	高い	緑地面積の少ない本区においては、緑化は大きな課題であり、行政の果たす役割は大きい。
有効性 目標達成に有効か 十分な効果が上がっているか	高い	10年で10万本を達成するということは、植える場所に乏しい本区としては、みどりを増やす指標にはなった。
効率性 実施方法は適正かつ効率的吗 サービスに係るコストは適正か	普通	すでに業務委託が可能な部分は委託を導入済みである。
		現状の評価【総合評価】
		B:普通

5. 一次評価

事業の施策貢献度	
今後の事業の方向性 （現状の評価および施策評価を踏まえた評価）	S:拡充 A:現状維持 B:改善・見直し C:縮小 D:終了
	B:改善・見直し
Dの場合	終了の理由

《上記判断の説明》

30年度中に10万本を達成する見込みであり、平成28年から毎年実施している「としまグリーンウェイブ」活動に参加する区民が年々増えているなど、本プロジェクトの成果が少しずつではあるが、目に見えるものとなっている。
みどり豊かな豊島区を実現するためには、今後も引き続き区内にみどりを増やしていく努力を継続する必要がある。都会の中の樹木は、周囲と調和した生長のための維持管理が必要である。これまで植えた樹木をより良い状態で安定的に維持管理していくことが今後の大きな課題である。

《上記の判断に基づいた今後の具体的な対応・改善策》

30年度は本プロジェクト10年目にあたり、「グリーンとしま」再生プロジェクト実行委員会と共催で10万本達成記念イベントを行い、成果を区民にPRする。同時に、これまで植えた樹木をどう生長させていくか、区民の関心を高める機会とする。これまでの植樹によって生まれた100か所近くの森の維持管理方法について、実行委員会の意見を尊重しながら構築する。

6. 二次評価

今後の事業の方向性	S: 拡充 A: 現状維持 A': 現状維持(経過観察) B: 改善・見直し C: 縮小 D: 終了	C: 縮小
Dの場合 ➡ 終了の理由		

《上記判断の説明》

10年で10万本の目標達成を踏まえ、今後は最低限度の維持管理に軸足を移して調整を進めていく。

平成30年度 事務事業評価表（A表）					事業整理番号	0601	- 02
担当組織	環境清掃部	環境政策課	作成者	富樫	内線	2613	
事務事業名	界わい緑化推進事業		計画事業No.	5 -	1 -	2 -	2
事務事業を構成する 予算事業	①界わい緑化推進事業経費						

政策体系（現基本計画）				事業特性			
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち					計画事業・一般事業	計画事業
政策	みどりの創造と保全			単独・補助	区単独事業	事業開始年度	25年度以前
施策	みどりのネットワークの形成	施策番号	5-1-2	運営形態	一部業務委託	事業終了年度	
施策の目標	学校等の区有施設のほか、民有地への植樹などを通じて、区全体の緑化を推進します。			関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標		公民連携	該当
						29年度 事業整理番号	0601 - 02

1. 事務事業の概要・目標と現状の把握

事務事業の概要 （事務事業の活動 内容・進め方）		「まちなか緑化」の手法を活用した向こう三軒両隣方式による民有地の接道緑化を推進する。 モデル地区植栽を活用し、新規地区への働きかけを行う。 植栽者による成果共有会等を通して植栽の維持管理のための情報共有を進め、事業普及の一助とする。							
事業の目標		公園緑地課の界わい緑化助成を利用し、3軒以上のまとまった接道緑化を実施し、まちなかのみどりを増やす。							
事業 の 対 象	事務事業の働き かける「対象」	区民							
	対象の指標	指標	単位	-	27年度 （実績）	28年度 （実績）	29年度 （実績）	-	30年度 （見込）
		人口（各年度4月1日現在）	人		277,323	281,540	284,921		287,623
事業 の 取 組 実 績	活動指標	指標	単位	29年度 目標（計画）値	27年度 （実績）	28年度 （実績）	29年度 （実績）	進捗率 （対目標値）	30年度 （計画値）
		説明会・ワークショップの開催	回		2	0	1	—	1
		成果共有会・維持管理説明会の開催	回		1	0	0	—	1
								—	
								—	
								—	
事業 目 標 の 達 成 状 況	成果指標	指標	単位	29年度 目標（計画）値	27年度 （実績）	28年度 （実績）	29年度 （実績）	進捗率 （対目標値）	30年度 （計画値）
		植栽実施個所	箇所	3	4	0	0	0.0%	3
								—	
								—	
								—	
								—	

2. 事業費の推移 (単位:千円)

事業費（決算額・予算額）		27年度	28年度	29年度					30年度	
		決算	決算	当初予算	補正予算	流転用	予算現額	決算	執行率	当初予算 増減 （29決算）
事業費（決算額・予算額） A		918	148	500		-36	464	463	99.8%	450 -13
人 件 費	正規	3,400	3,570	—	—	—	—	3,570	—	3,570 0
	（人数）	0.40	0.42	—	—	—	—	0.42	—	0.42 0.00
	非常勤	0	0	—	—	—	—	0	—	0 0
	（人数）	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—	0.00 0.00
人件費 計 B		3,400	3,570	—	—	—	—	3,570	—	3,570 0
事業費 計 A+B		4,318	3,718	—	—	—	—	4,033	—	4,020 -13
財 源 内 訳	国、都支出金						0		—	0
	使用料・手数料						0		—	0
	地方債						0		—	0
	その他						0		—	0
	一般財源	4,318	3,718	—	—	—	—	4,033	—	4,020 -13

3. これまでの事務事業評価を踏まえた対応

前年度最終評価	C:縮小
前年度評価に基づいた具体的な対応、改善策（前年度の評価表から転記）	これまでの時間、経費と実績から、事業そのものを見直す。
上記対応、改善策による進捗状況	公園緑地課とともに、制度の要件の見直し(3軒以上という要件の緩和)、助成額の上限及び助成割合の見直しを検討したが、他の緑化制度との兼ね合いもあり、見直しは難しいという結論であった。

4. 現状の評価

点検項目	評価	判断理由
必要性 区が主体的に行うべきものか 社会情勢変化により必要性が薄れていないか 所期の目的を終えたのではないか	普通	向こう三軒両隣方式はコミュニティ形成にも資するものであり、都市の緑化手法としては有効な面もあるが、適度にみどりに乏しく、かつ緑化に経費を支出する余裕があることが必要である。
有効性 目標達成に有効か 十分な効果が上がっているか	低い	狭小な民有地の緑化を進められる手法ではあるが、いくつかの緑化手法の一つとしてとらえるべきである。
効率性 実施方法は適正かつ効率的か サービスに係るコストは適正か	低い	コミュニティを醸成しながら3軒以上の一定のまとまりのあるみどりを作り出すためにはコーディネーターは不可欠であるが、コーディネートの対象となる植栽希望者がいない状態である。
		現状の評価【総合評価】
		C:不十分

5. 一次評価

事業の施策貢献度	★	
今後の事業の方向性 （現状の評価および施策評価を踏まえた評価）	S:拡充 A:現状維持 B:改善・見直し C:縮小 D:終了	D:終了
Dの場合 ➡ 終了の理由		廃止

《上記判断の説明》

モデル植栽を除く実績は、25年度～29年度の5年間で2地区（目白、池袋本町）、8か所にとどまる。 この間、広報としまに掲載するほか、区政連絡会、商店会にチラシ配布、ポスター掲示、植栽地見学の実施等により周知に努めてきたが、問い合わせは年間1～2件である。最近2年間は希望者に植栽地見学を実施したが、その後、助成制度の要件がそろわず植栽に至っていない。 この制度によるみどりの規模に対し、時間と経費がかかり、希望者もなかなか現れないことから、当区の実情にそぐわないと考える。
--

《上記の判断に基づいた今後の具体的な対応・改善策》

公園緑地課に私有地の接道部分や壁面の緑化に対する助成制度があるので、界わい緑化制度を廃止し、当事業を終了する。

6. 二次評価

今後の事業の方向性	S:拡充 A:現状維持 A':現状維持(経過観察) B:改善・見直し C:縮小 D:終了	D:終了
Dの場合 ➡ 終了の理由		廃止

《上記判断の説明》

--

事務事業名	誕生記念樹配付事業	計画事業No.	5	—	1	—	2	—	3
事務事業を構成する 予算事業	①誕生記念樹配付事業経費								

政策体系(現基本計画)					事業特性				
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち						計画事業・一般事業	計画事業	
政策	みどりの創造と保全				単独・補助	区単独事業	事業開始年度	27年度	
施策	みどりのネットワークの形成	施策番号	5-1-2		運営形態	一部業務委託	事業終了年度		
施策の目標	学校等の区有施設のほか、民有地への植樹などを通じて、区全体の緑化を推進します。				関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標		公民連携		
							29年度 事業整理番号	0601	- 03

1. 事務事業の概要・目標と現状の把握

事務事業の概要 (事務事業の活動 内容・進め方)		子どもの誕生を祝い、健やかな成長を願って誕生記念樹として「いのちの森」の樹種を中心とした苗木を贈るとともに、緑化の推進を図る。子育て支援課、総合窓口課等で申し込みはがきを配布し、希望者ははがきで業者に申し込むと、苗木が宅配される。							
事業の目標		区内に樹木を増やすと同時に、子どもの誕生をきっかけにみどりへの関心を高め、「グリーンとしま」再生プロジェクトに対する理解を広める。							
事業 の 対 象	事務事業の働き かける「対象」	区内で子どもが生まれた家庭							
	対象の指標	指標	単位	—	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	—	30年度 (見込)
		区内で生まれた子どもの数(暦年)	人		2,206	2,224	2,247		2,000
事業 の 取 組 実 績	活動指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		贈った苗木の本数	本	1,000	475	629	607	60.7%	800
								—	
								—	
								—	
								—	
事業 目 標 の 達 成 状 況	成果指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		植樹本数(苗木配布本数を含む)	本	10,000	9,184	8,803	18,230	182.3%	7,000
								—	
								—	
								—	
								—	

2. 事業費の推移 (単位:千円)

事業費(決算額・予算額)		27年度	28年度	29年度					30年度		
		決算	決算	当初予算	補正予算	流転用	予算現額	決算	執行率	当初予算	増減 (29決算)
事業費(決算額・予算額) A		1,342	1,778	3,100		-1,199	1,901	1,829	96.2%	2,845	1,016
人 件 費	正規	1,275	1,275	—	—	—	—	1,275	—	1,275	0
	(人数)	0.15	0.15	—	—	—	—	0.15	—	0.15	0.00
	非常勤	0	0	—	—	—	—	0	—	0	0
	(人数)	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—		0.00
人件費 計 B		1,275	1,275	—	—	—	—	1,275	—	1,275	0
事業費 計 A+B		2,617	3,053	—	—	—	—	3,104	—	4,120	1,016
財 源 内 訳	国、都支出金						0		—		0
	使用料・手数料						0		—		0
	地方債						0		—		0
	その他						0		—		0
	一般財源	2,617	3,053	—	—	—	—	3,104	—	4,120	1,016

3. これまでの事務事業評価を踏まえた対応

前年度最終評価	B:改善・見直し
前年度評価に基づいた具体的な対応、改善策（前年度の評価表から転記）	広報特集号の「すくすくふくろうナビ」に掲載するなど、引き続き制度周知を工夫するなど改善する。
上記対応、改善策による進捗状況	保健所の3-4か月健診時にリマインドチラシを配布、広報特集号「すくすくふくろうナビ」に年2回、子育て支援課のメールマガジンに毎月周知記事を掲載した。

4. 現状の評価

点検項目	評価	判断理由	
必要性 区が主体的に行うべきものか 社会情勢変化により必要性が薄れていないか 所期の目的を終えたのではないか	普通	子どもの誕生をきっかけとして、みどりに対する関心を高め、区内にみどりを増やすことができる。	
有効性 目標達成に有効か 十分な効果が上がっているか	普通	区内植樹本数の増加に一定の貢献をしている。	
効率性 実施方法は適正かつ効率的か サービスに係るコストは適正か	高い	苗木の希望者が直接配付業者に申し込むと、希望者宅に配送される。利用者にとって利用しやすい仕組みである。	
		現状の評価【総合評価】	B: 普通

5. 一次評価

事業の施策貢献度	★★		
今後の事業の方向性 （現状の評価および施策評価を踏まえた評価）	S:拡充 A:現状維持 B:改善・見直し C:縮小 D:終了	A:現状維持	
		Dの場合	終了の理由

《上記判断の説明》

子どもの誕生という人生の記念日に、その成長を見守るとともに区内にみどりを増やすという大変意義のある事業である。
実施方法は効率的で、記念樹を希望する人にも負担の軽い方法である。
対象者に情報の届きやすい方法で周知をしている。

《上記の判断に基づいた今後の具体的な対応・改善策》

集合住宅が多いが、鉢植えでの育て方も記載したパンフレットも入れて配付し、周知の際にも鉢植えでも育てられることをPRしている。
引き続き、PRに工夫していく。

6. 二次評価

今後の事業の方向性	S: 拡充 A: 現状維持 A': 現状維持(経過観察) B: 改善・見直し C: 縮小 D: 終了	B: 改善・見直し
Dの場合 		終了の理由

《上記判断の説明》

子ども家庭部との連携も含め、より効果的な事業のあり方について検討する。

担当組織	都市整備部	公園緑地課	作成者	茂木明	内線	94215
------	-------	-------	-----	-----	----	-------

事務事業名	街路美化経費	計画事業No.				
事務事業を構成する 予算事業						

政策体系(現基本計画)				事業特性			
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち					計画事業・一般事業	一般事業
政策	みどりの創造と保全			単独・補助	区単独事業	事業開始年度	25年度以前
施策	みどりのネットワークの形成	施策番号	#VALUE!	運営形態	一部業務委託	事業終了年度	
施策の目標	区道の街路樹・植樹帯を整備することによって、公園・児童遊園等をはじめ、公共施設や民有地の緑をつなぎネットワークを形成していきます。			関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標		公民連携	
						29年度 事業整理番号	1103 - 06

1. 事務事業の概要・目標と現状の把握

事務事業の概要 (事務事業の活動 内容・進め方)		通行の妨げとなっている支障枝の剪定及び樹形維持のための剪定を実施する。 繁殖期で凶暴性を帯び、区民に危害を加える恐れのあるカラスの巣を撤去する。							
事業の目標		街路樹等の適正な維持管理を行うことにより、樹木の健全な育成と歩行者(区民等)の安全を確保する。							
事業の 対象	事務事業の働き かける「対象」	区民							
	対象の指標	指標	単位	-	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	-	30年度 (見込)
		人口(1. 1住民基本台帳登録者数)	人		275,507	280,639	284,307		287,111
事業の 取組実績	活動指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		街路樹剪定	本	1,200	404	1,283	1,103	91.9%	1,200
		カラスの巣撤去	個	15	7	11	7	46.7%	10
								—	
								—	
								—	
事業 目標 の達成 状況	成果指標	指標	単位	29年度 目標(計画)値	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	進捗率 (対目標値)	30年度 (計画値)
		倒木・折れ枝による発生事故件数	件	0	0.0	0.0	0	#DIV/0!	0
								—	
								—	
								—	
								—	

2. 事業費の推移 (単位:千円)

事業費(決算額・予算額)		27年度	28年度	29年度						30年度	
		決算	決算	当初予算	補正予算	流転用	予算現額	決算	執行率	当初予算	増減 (29決算)
事業費(決算額・予算額) A		41,429	44,636	45,995			45,995	39,334	85.5%	48,295	8,961
人件費	正規	16,405	17,255	—	—	—	—	18,360	—	18,360	0
	(人数)	1.93	2.03	—	—	—	—	2.16	—	2.16	0.00
	非常勤	360	972	—	—	—	—	432	—	432	0
	(人数)	0.10	0.27	—	—	—	—	0.12	—	0.12	0.00
人件費 計 B		16,765	18,227	—	—	—	—	18,792	—	18,792	0
事業費 計 A+B		58,194	62,863	—	—	—	—	58,126	—	67,087	8,961
財源内訳	国、都支出金						0		—		0
	使用料・手数料	41,429	44,636	43,995			43,995	39,334	89%	43,995	4,661
	地方債						0		—		0
	その他						0		—		0
	一般財源	16,765	18,227	—	—	—	—	18,792	—	23,092	4,300

3. 現状の評価

点検項目	評価	判断理由
必要性 区が主体的に行うべきものか 社会情勢変化により必要性が薄れていないか 所期の目的を終えたのではないか	高い	街路樹は道路付属物であり、管理はその路線を管理する区が行う必要がある。
有効性 目標達成に有効か 十分な効果が上がっているか	普通	剪定費用については、樹木の成長とともに増加するため、予算が必要本数に満たなくなる。
効率性 実施方法は適正かつ効率的か サービスに係るコストは適正か	高い	夏期・冬期剪定及び支障枝剪定を年間通して委託しており、効率的に管理を行っている。
		現状の評価【総合評価】
		B: 普通